

観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編

「滞在して楽しい観光地づくり」の活動を進めるに当たり、観光地は、どうあるべきか？の視点ではなく、“ひとは、なぜ旅をするのか？”を読み解く事から始めました。

— 旅人が求めるもの、こと… —

“観光”という言葉からイメージされる、素敵な景色や美味しい料理だけではない、何かが…？そこで「風」をキーワードに、旅に繋がる言葉を挙げてみました。

風土・風景・風情・風味・風俗・風流・風雅などどれも旅の魅力につながる言葉だと思います
ひとは、なぜ旅をするのか？

誰もがいろいろな旅のシーンを思い描くでしょう
恋人との旅、家族との旅、仲間との旅、ひとり旅
そこに共通するのは、日常とは異なる環境を求め訪れた地域の魅力に触れ合うことが挙げられます
滞在を楽しむ中には、その地域が持つ独特な文化に誇りを持ち暮らす人々の心の豊かさ、その自然な笑顔が、旅の大きな魅力となります。



「旅するところ2016」— YouTubeより —

そんな環境の中で、一緒に訪れた家族・仲間との行動や会話。地域の人々との交流を通じての驚き
“旅とは新しい自分を発見する事でもある”
滞在する中で、何かを感じ！何かを想う！そこに特別な“おもてなし”など、旅人は求めている

— 地域がすべきこと —

観光をどうする？の前に足元を見てみましょう
多くの地域では人口減少や高齢化の問題を抱えています。いまずべき事は地域の有する「魅力」を「豊かさ」に変える事です。

魅力とは各地域の個性から生まれ、その個性を地域全員が共有し磨く事で地域が大きく変わるからです。滞在して楽しい観光地づくり、とは地域の人々が、自分たちの力で、自分たちの為に、自分たちの誇れるまちを創る。
その魅力に多くの人が訪れ、滞在を楽しむ！この理念を映像化しYouTubeに掲載しています「旅するところ2016」で観ることが出来ます。

「アルプス山岳郷」のDMO活動
欧米にあるような“多様な人々が滞在を楽しめる山岳リゾート”は、残念ながら日本には存在していません。
そこで、槍穂高・上高地・乗鞍高原・白骨温泉・さわんど温泉・ながわ、の個性（価値）の異なる6地域が連携をすることで多様な楽しみ方を求め訪れる人々が、個性や豊かさを味わいながら滞在して楽しめる山岳リゾートを創るべく活動を始めました。

江中伸広

公益社団法人 国際観光施設協会 理事



6地域の地図

私たちの住む地域は標高 1000m 以上にありきれいな空気と水に恵まれています。新緑の木々、山野草、秋の紅葉、雪景色、どれも平地にはない素晴らしい「色」に彩られています。その環境からスイスのグリンデルワルト村と姉妹提携をしています。

グリンデルワルトは、ご存知のようにアイガーの麓にあり登山電車で 3454m まで登って、そこから氷河をダイナミックに滑り降りる事が出来たり四季を通して多様な人々が滞在を楽しむ為の素晴らしい施設や環境が整っています。

交流を重ねる中で、我々も年間を通じ多様な人々が滞在を楽しめる山岳リゾートにしたいとの思いが生まれ、一つ一つのスケールでは及ばないものの、私たちのエリアには『趣』の異なる魅力ある個性をもつ地域が数多く存在しており、地域連携をすることで、欧米のように 1 週間でも、1 カ月でも“滞在を楽しめる環境”を創り出す事が出来る。それを目指して、槍穂高・上高地・乗鞍高原白骨温泉・さわんど温泉・ながわ・6 地域が連携し活動する「アルプス山岳郷」が生まれました。

— アルプス山岳郷 DMO —

そんな折、政府の観光を軸に地方創生を図るとの

政策が発表され、観光庁が提唱する日本版 DMO 候補法人に 4 月に選定されました。

現在、地域だけでなく行政はじめ金融機関・交通事業者・有識者などと協議を重ね DMO の組成に向けて取り組んでいます。幸い地域には次代を担う若者が集う「ブリッジ」(会員

70 人) が、この機会を捉えて活発な活動を推進しています。また都会には地元に戻りたい若者、移住して来たいと希望する若者も頼もしい存在です。そんな若者たちが心豊かに暮らすことが出来る地域にする事。これも我々の大きな目標としていることです。

地球規模で“ヒトやモノ”が移動している現代に「人間らしい時間と空間」は、自然豊かな環境に存在していると思います。

訪れた人たちが自然に触れ、何かを感じて帰る姿



1つの地域に滞在し、隣り村に遊びに行く感覚を通じてアルプス山岳郷に“暮らすように滞在する”また都会に居ても、心の何処かでアルプス山岳郷を想い、行きたいなあ！ 帰りたいなあ！と感じ愛される事を目指したいと思っています。

それには、豊かな自然環境を生かし 6 地域の持つそれぞれ特徴ある個性を地域で共有し更に磨く事 DMO は観光業だけの取組ではなく、地域全体が精神的にも、経済的にも豊かになる事が目的です。それは自分たちの地域・文化に誇りを持ち暮らす事から生まれます。

都会に憧れ・都会に暮らす！ いま、この流れは大きく変わろうとしています。

我々は、もっともっと“心を磨き”この課題に正面から取り組みたいと考えています。

この地域には都会とは違う豊かさがあり、暮らしの中に笑顔が、そして滞在を楽しむ人々にとって“心のふるさと”となれるよう、頑張っています。この夏には、地域間を継ぐ周遊バスの試験運行を開始します。

斎藤 元紀

将来構想委員会 委員長

白骨温泉

「山水観湯川荘」主人

